

IZUMI JUNIOR COLLEGE

# 宗教部便り

EX HOC CHRISTI FONTE PURITAS  
ET CARITAS JUVENTUTIS SURGANT

第42号

2010年3月10日

発行兼 宗教委員会  
編集 宗教委員会  
発行所・和泉短期大学

神奈川県相模原市青葉2の2の1  
TEL 042 (754) 1133 (代表)  
FAX 042 (753) 2087  
URL <http://www.izumi-c.ac.jp>

## 髪の毛までも 数えられている



理事長 深町 正信

聖書のマタイによる福音書第十章

三十節と三十一節には「あなたがたの髪の毛までも一本残らず、数えられている。だから恐れるな。あなたがたは、沢山の雀よりはるかにまさっている」とありますが、私たちの人生の真の支配者は運命とか宿命という訳の判らない力でなく、天地万物何もかも創造された父なる神であることをここに教えられています。

「髪の毛までも一本残らず数えられている」とはどういう意味であるのかといえば、私の髪はすべて私のものでありますが、それが一体何本あるのかを、私たちは誰一人正確に知らないものです。

常日頃、私たちは自分のことは自分自身が一番よく知っていると思いがちです。しかし、それが事実でないことは、私のもつ髪の毛の数すらも正確に知らないことがよく語っていると思うのです。私たち人間は、私自身のものでありながら、私の知らないことが数多く存在しており、自分自身の力で解決できない課題を数多くもつ存在であります。

しかし父なる神は天地万物すべての創造者として、その被造物のすべてを良く知っておられる方であります。父なる神は、私が私自身を知っている以上に、私の強さも弱さも、すべてを知って、守り、導いていくのださる恵み深い方であります。この父なる神が、何時でも、何処でも、この私という存在のすべてを知って、愛をもって良く導き、確かな御腕をもって守り、恵みの御手をもって支えていくのださる方であるのです。

そのすべての責任を負ってくださる父なる神こそが、実は私たちの人生と歴史の真の支配者であり、心から信頼出来る牧者であるのです。聖書には「わたしたちすべてのために、その御子をさえ惜しまず死に渡された方」とありますが、聖なる御子イエス・キリストを卑しい人間として、この世に遣わして、その十字架の贖いの死により、恵みにより、信仰さえあれば、誰でも救ってくださる救いの道を約束されているのであります。このことを心から信じる時、私たちは何時でも、何処でも、人生を絶対的安心感をもって生き、厳しい時代の中でも、なお、イエス・キリストと共に前進して、希望に顔を輝かせて生きてゆく勇気を持つ事が出来る心から信じるものです。

「わたしは弱いときにこそ強い」、このように言っているのは、あの偉大な使徒パウロです。自分の弱さを他人に見せることは競争社会に生きている私たちにとって危険なことです。その事のゆえに私たちはいつのまにか他人の前で、本当の自分を見せられないだけでなく、本当の自分を見失うことにもなるのです。

そんな私たちが、このパウロのように、わたしは弱いときにこそ強いのだ、と知ったら、私たちは、どんなに自分らしく、安心して生きるこ



伊藤 忠彦

チャプレン・学長

## 『わたしは弱いときにこそ強い』 二〇〇九年度聖句

### チャペルアワー献金及びクリスマス献金の報告

〈収入〉		
チャペルアワー献金	100,863円	
クリスマス献金	70,137円	
〈支出〉		
特定非営利活動法人		
チャイルド・ファンド・ジャパン	96,000円	
東光学園 他14件	75,000円	
感謝して報告申し上げます。		

とができることでしょう。また、自分では出来そうもない、そう思える課題に、勇気をもって立ち向かうことも出来るかもしれません。それでは、どうしたら「弱いときにこそ強い」ことを知り、また確信できるようになるのでしょうか。それは、自分の力や、見せかけの強がりでは通用しない事態に直面することを通してです。

「病まなければ、味わい得ない愛がある  
病まなければ、捧げ得ない祈りがある」

こう歌った詩人がいます。

この詩人は病気になるまで初めて受ける愛を知り、病んで初めて真剣に祈ることができた感謝をうたっているのです。

人は自分の限界、弱さに直面して感謝しないではいられない経験をするのである。

使徒パウロも病を抱えていて、三度も、神様に癒しを求めて祈りました。すると「わたしの恵みは十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮される」と、神様はパウロに言われました。

パウロは「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。」(一テサロニケ五・十六)と人々に勧め、また、そのように生きる人となったのです。

強く生きるとは、どう生きることか、聖書は私たちに、このように教えているのです。

# チャペルアワー報告

●横川 剛毅

毎週月曜日のチャペルアワー。昨年度までは呼びかけられる側でした。今年度は準備し、呼びかける側になりました。

昨年度までは時間に余裕のある日に出席しました。今年度は年間を通して全回お捧げしました。

何事もやってみなければわからないことがあるものです。一回のチャペルアワーには、実はさまざまな人のご尽力が重なり合っていたこと。そして、学生さんがたくさん集まった時の高揚感。反対に開始時刻になっても人がまばらな時の、なんとも言えない焦燥感。いろいろなことを知り、感じ、思いながら時が進んでいきました。神様の導きのもと、多く

の人に助けられながら始業礼拝や讃美と祈りの会を含めると三十四回の礼拝をお捧げできました。この紙面をお借りして心からお礼を申し上げます。ありがとうございます。さて、2010年度。これまで引き継いできたことを大切にしながら、いくつかの新しい試みもしてみたいです。その一つが、もっと学生さんにチャペルアワー等で役割を持つてもらおうということです。聖書を読み上げたり、司会をしたり、準備を手伝ってもらったりする。うすることやチャペルアワーが学生さんにとつてより身近なものになってほしいと強く願っています。キリスト教主義の学校で、学生さんが大きな恵みであることを、皆さんの一人一人に少しでもわかってもらえるよう、工夫し、努力し、祈って、進んでいきたいです。

## 2009年度チャペルアワー一覧

月日	タイトル	説経・奨励者(敬称略)	月日	タイトル	説経・奨励者(敬称略)
4/1	「私は弱いときにこそ強い」	伊藤忠彦 ※2年始業礼拝	8/31	「讃美と祈りの会」	宗教委員会
13	「オリエンテーション」	潮田健治 ※イースター礼拝	9/7	「讃美と祈りの会」	宗教委員会
20	「チャペルアワーに来よう」	宗教委員会	14	「讃美と祈りの会」	宗教委員会
27	「和泉短期大学のルーツ」	伊藤忠彦	24	「求めなさい、そうすれば与えられる」	伊藤忠彦 ※1年始業礼拝
5/11	「人生に命の泉あり -そこに至る印しの門は-」	木村治男	10/8	「求めなさい、そうすれば与えられる」	伊藤忠彦 ※2年始業礼拝
18	「ギデオンの働き」	伊藤忠彦	12	「喜びの遊び」	山本美貴子
25	「神を信じ、人に仕える」	横川剛毅	19	「善いサマリア人のように」	伊藤忠彦
6/1	「真の自由」	辻川 篤	11/2	「放蕩息子 主を信頼して歩む」	松浦浩樹
8	「神の賜物を生かす」	伊藤忠彦	9	「主にあつて復活し」	深町 正信 ※召天者記念礼拝
15	「ハレルヤ賛美せよ」	I.C.F	16	「ステンドグラスの「善いサマリア人」」	佐藤守男
22	「神様のご計画」	櫻井奈津子	23	「目を覚ましていなさい」	伊藤忠彦
29	「悔いのない人生」	横山 望	30	「あなたのクリスマスリストは何ですか?」	鈴木敏彦 ※アドベント礼拝①
7/6	「善をもって悪に勝ちなさい」	伊藤忠彦	30	クリスマスツリー点火祭	伊藤忠彦
13	「私の身に一つのとげが与えられました」	武石宣子	12/7	「クリスマスの鐘」	I.C.F ※アドベント礼拝②
7/20	「祈りを通して、体力アップ!」	井狩芳子	14	「イエスさまが生まれました」	キリスト教保育園修者 ※アドベント礼拝③
27	「苦しみでなくなる」	伊藤忠彦	21	「言葉の力、声の力」	大畑眞由美 ※クリスマス礼拝
8/24	「讃美と祈りの会」	宗教委員会	1/25	「見えないものに目を注ぐ」	横川剛毅

# 宗教部活動トピックス

●宗教委員会

①ハンドベルクワイアが再出発しました!

伝統ある和泉短期大学ハンドベルクワイアは、08年度二年生隊員のみだった為に、少し心細い4月を迎えました。しかし、今年度新たに二年生が集まり、6月から活動が再開されました。田中幸子先生のご指導をいただき、学園祭で緊張のデビュー。召天者記念礼拝での奉仕を経て、クリスマスの時期にはレパトリリーも増えていきました。12月19日(土)には初めての外部依頼演奏も行うなど大活躍でした。和泉のハンドベルの伝統を引き継いでくれた学生の皆さんに感謝!

②フィリピン台風被害に義援金  
9月26日に台風16号が上陸したフィリピン。亡くなられた方や避難生活を余儀なくされた方が多く甚大な被害に見舞われました。そこで被害に遭われた人たちの生活や復旧活動に役立てていただくために学内で義援金を募りました。集められた義援金はチャイルド・フアンド・ジャパンを通して現地の方に送られました。

③里子との交流  
私たちが支援しているフィリピンの里子の二人へクリスマスカードを送ろう!ということで、学生ホールに緑のメッセージカードを用意しました。するとたくさんさんのメッセージが寄せられました。それらを赤いカードに貼り付け素敵なクリスマスメッセージカードを送りました。里子の二人からもすぐにお返事が届きました。直接会うことはないけれど、目に見える形で交流ができたことを喜んでいきます。

# 聖歌隊活動報告

●二年 伊藤あゆみ(ソプラノ)

09年度の一年生4名、二年生6名の計10名で、顧問の山本先生と共に活動をしてきました。年間を通してチャペルアワーでの奉仕を行い、クリスマスには子育て支援プログラム「はつぴい」にてクリスマスコンサートを行いました。

練習は毎週水曜日のお昼休みに行い、後期からはパート毎の練習も行いました。練習出来る時間は短かったのですが、とても充実した活動が出来ました。このメンバーと共に賛美をする事が出来た事を心から嬉しく思います。最後になりましたが、二年間お世話になった先生方、温かく見守って下さり、本当にありがとうございました。

# ICF活動報告

●二年 風間 亮太

2009年度では昨年度から引き続き、チャペルアワーでの奉仕をさせていいただく機会をもつことができました。

活動参加人数は二年生4名、一年生約3名で活動してきました。週一(前期:火曜日 後期:月曜日)でお昼休みに宗教センターで祈り会、数回の聖書研究、前期、後期に各一度ずつのチャペル奉仕(前期は「讃美」というテーマで発表)(後期は「讃美」のダンススキットと二曲の讃美をしました。初めの頃になかなか一年生が与えられず、祈り会の度に祈禱課題として挙がっている日々でした。しかし、メンバーで聖歌隊やハンドベルにも所属している人もいたため、このつながりから徐々に一年生が集う日々が続き、クリスマス前の奉仕では一二年生が協力して参加する事もできました。

学内にお互いのために祈り合うという場が少しでも多くの学生にとつて励みになる場であることを願って、今後もこのICFというコミュニティが活かされていくことを祈っていきます。



## ハンドベル・クワイアだよ!

●隊長 田畑 昌美

08年度隊員卒業後、今年は一人も隊員のない状態でゼロからのスタートとなっていました。二年生3人、一年生5人の8人のメンバーが集まりました。

春から毎週水曜日の放課後やお昼休みに集まり自主練習をしたり、専門の先生のご指導を受けながらの練習を行っています。